

## 宮城県森林審議会

令和 6 年 2 月 1 4 日（水）

### 情報提供資料

- 資料 2 - 1 みやぎ森と緑の県民条例基本計画（中間見直し）
- 資料 2 - 2 広葉樹流通システム事業の概要
- 資料 2 - 3 ハーベスタシミュレーターの概要
- 資料 2 - 4 林相転換特別対策の概要
- 資料 2 - 5 海岸防災林の普及啓発に係る事業の概要



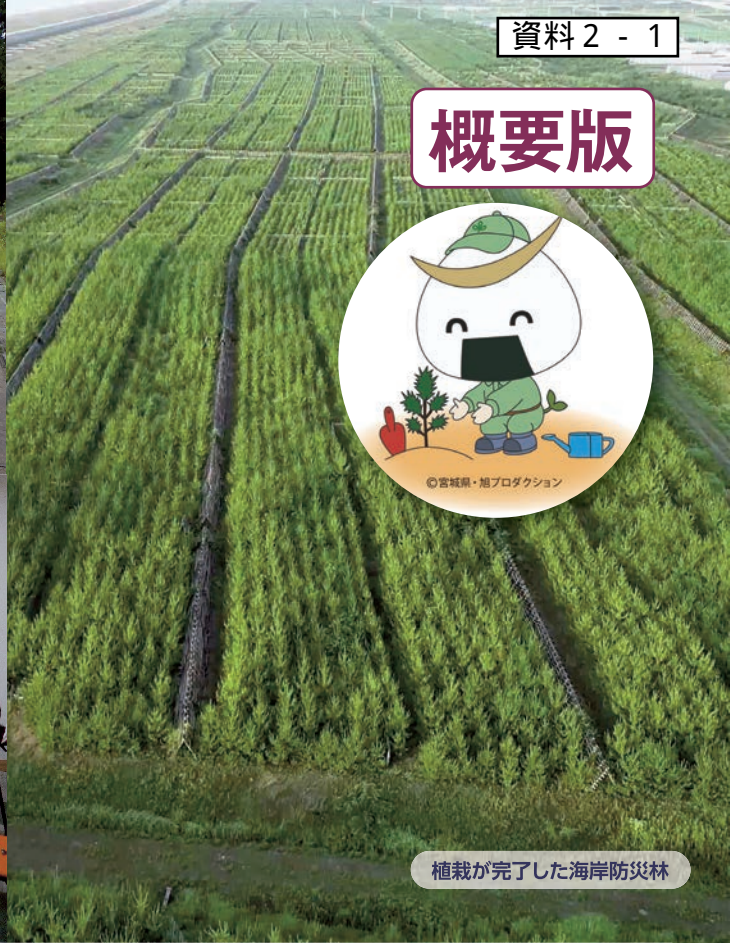
# 概要版



みやぎ森林・林業未来創造カレッジ  
(スマート林業研修における森林調査技術の習得)



みやぎ森林・林業未来創造カレッジ  
(オープンカレッジにおける事例発表・意見交換)



植栽が完了した海岸防災林

# みやぎ森と緑の県民条例基本計画

## ～新みやぎ森林・林業の将来ビジョン～

### (中間見直し)



2018 - 2027

宮城県林業技術総合センター  
(CLTパネル工法による建築)

# 宮 城 県



成長が早く、雄花の着花量が少ない  
【特定母樹】の採種園造成



## 7 5つの重要プロジェクト

50年後、100年後の宮城の森林、林業・木材産業の姿を考え、県がこの10年間で取り組む施策の中でも特に力を注いでいくべき取組を「重点プロジェクト」に設定し、多様な主体の協力を得ながら推進していきます。

### 重点プロジェクト1 新たな素材需給システムと木材需要創出 ～年間生産70万m<sup>3</sup>への挑戦～



#### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 県内のCLTを用いた建築物の建設棟数は、令和3(2021)年度までに21棟に増加し、また、木質バイオマス活用施設導入数は65基に増加するなど、着実に成果が現れています。
- 加工・製品流通の合理化については、ブロックチェーンを活用した木材流通システムの構築に向けた取組が開始され、今後は川上から川下までのサプライチェーンの整備を推進していく必要があります。



CLT建築事例 (左:株式会社コスモスウェブ本社(仙台市))  
(右:みやの森こども園(大和町))

### 重点プロジェクト2 主伐・再造林による資源の循環利用



#### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 主伐・再造林については、一貫作業システムの普及や補助事業体系の見直しなど、森林施業の低コスト化・省力化を現場レベルで定着させる取組を推進し、再造林率のアップにつながっています。
- 森林施業の集約化に向け、これまでに「意欲と能力のある林業経営者」として32団体を認定・登録したほか、森林情報適正化やクラウドシステムを導入し、集約化の基礎となる森林情報の整備を進めました。
- 適切な森林管理が行われていない森林については、「森林経営管理制度」による新たな取組が開始されていますが、円滑で効果的な実施に向け、市町村への支援を強化していく必要があります。



主伐から再造林までの一貫作業 再造林された山林

## 重点プロジェクト3 経営能力の優れた経営者の育成,新規就業者の確保



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 令和2(2020)年度に、産業界・地域の団体・行政などが連携し「みやぎ森林・林業未来創造機構」を設立するとともに、機構による「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」が令和4(2022)年度に開校したことで、重点プロジェクトで描いた「林業の就業環境の向上や経営強化」と「人材の確保・育成」に向けた取組を一体的に推進する体制が整いました。
- 今後は、PDCAサイクルにより、カレッジの充実・強化を図りながら、林業の課題を解決し、儲かる林業・魅力ある林業の実現へとつなげていく必要があります。

### カレッジ受講生の声(林業DX講座)

- ◆日頃の業務中では触れないレベルが高い内容で、毎回新たな可能性を掻き立てられます。
- ◆受講生同士の情報交換など、講義以外にも参考になる気づきが多くあります。
- ◆林業DXは林業の新たな構造改革の可能性を秘め、特にこれからは事業体間の連携も必要になると感じました。

## 重点プロジェクト4 地域・産業間連携による地域資源の活用



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- これまで県内ではあまり利用されてこなかったコナラ等の有用広葉樹を活用し、著名なデザイナーや伝統工芸職人のグループなどと連携して、新たな家具製品が商品化されているほか、森林浴ツアーや森林セラピーなど、森林資源を活用したサービスが提供されています。
- これらの取組においては、デザイナーやアウトドアメーカー、化粧品ブランドメーカーなど、様々な異業種との連携が見られ、より良い商品やサービスの創出につながっています。今後、先行事例を広く共有し、横展開を図るとともに、積極的に異業種とも交流・連携できる、意欲的な経営者等の育成を図りながら、新しい価値を創造できるネットワークづくりを進める必要があります。



森林認証材を活用した家具ブランド「kitakami」の立ち上げ



## 重点プロジェクト5 海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 県民等が主体的に関わる海岸防災林の管理体制を構築するため、令和3(2021)年3月に「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」協定団体及び関係市町等で構成する「みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会」を設立しました。また、海岸防災林が人々に親しまれ、若い世代に将来にわたって活動を行ってもらうことを目的に、令和3(2021)年度から「みやぎグリーンコーストプロジェクト」の取組を開始し、普及動画の制作やバスツアーの開催などを行っています。
- 重点プロジェクトで描いた仕組みが形になり、具体的な取組を開始していますが、海岸防災林が十分な機能を発揮するまでには長い年月を要するため、引き続き、将来にわたって、活動を継続していく必要があります。



動画制作及びYouTubeチャンネル開設



みやぎ海岸防災林対話会

## 8 新みやぎ森林・林業の将来ビジョンの目標指標状況

政策Ⅰ						
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)	
素材生産量【年間】	千m <sup>3</sup>	627	638	98%	700	
林業(木材)産出額【年間】	億円	44	49	90%	56	
木材・木製品出荷額【年間】	億円	710	846	84%	980	
木質バイオマス活用施設導入数【累計】	基	65	50	130%	60	
CLTを用いた建築物の建設棟数【累計】	棟	21	26	81%	54	
森林経営計画の策定率【累計】	%	27	43	63%	60	
経営管理権集積計画作成市町村数【累計】	市町村	4	—	—	30	

政策Ⅱ						
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)	
間伐実施面積【年間】	ha	3,366	5,600	60%	5,600	
植栽面積【年間】	ha	289	308	94%	400	
松くい虫による枯損木量【年間】	m <sup>3</sup>	9,305	12,019	129%	10,000	
保安林の指定面積【累計】	ha	68,964	68,871	100%	70,872	
山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率【累計】	%	47	60	78%	65	

政策Ⅲ						
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)	
新規林業就業者数【年間】	人	42	70	60%	100	
森林施業プランナー雇用林業事業者数【累計】	事業者	20	17	118%	28	
林業(特用林産物)産出額【年間】	億円	41	40	103%	46	
宮城県森林インストラクター認定者数【累計】	人	683	725	94%	900	

政策Ⅳ						
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)	
海岸防災林(民有林)造成面積【累計】	ha	753	750	100%	750	
海岸防災林の保育管理面積【累計】	ha	12	—	—	753	
原木きのこ出荷制限(自粛)解除生産者数【累計】	人	54	47	115%	66	
特用林産物生産施設のGAP認証取得数【累計】	件	5	8	63%	15	

※ 実績値は各項目の直近公表値を記載(令和5年2月時点)  
 ※   は現時点での目標値(中間目標値)を概ね達成している項目  
 ※   は中間見直しにおいて、新たに設定した目標指標

本ビジョンに関する御意見や御提案は下記までお願いします。

宮城県 水産林政部 林業振興課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL.022-211-2911 FAX.022-211-2919

[E-mail] rinsin@pref.miyagi.lg.jp

[U R L] <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/>



事業名 **広葉樹流通システム事業**

(ビ) (黄)

水産林政部林業振興課  
(TEL211-2912)  
R6予算要求額：10,000千円

1. 事業目的

【広葉樹流通システム】水産林政部〈新規〉

放射性物質の影響により高齢化・大径化した広葉樹林について、更新伐を促進するとともに新たな流通システムを確立し、広葉樹資源の付加価値向上によるビジネスモデルの構築を目指すため、広葉樹林の資源評価ビジネスの創出や、ICT等を活用した需給情報の共有や管理などにより、価格の高い家具、建築用材の供給体制構築に向けた取組を推進するもの。

2. 事業概要

広葉樹資源の付加価値向上によるビジネスモデルの構築

3. 事業内容（予算額・事業スキーム等）

- (1) **広葉樹林評価ビジネスの創出事業**  
樹種判別、選木、採材方法について、林業事業者等に対して研修会の開催及び、マニュアルの作成。  
市場の需要調査、宮城県として出荷を勧める樹種の特定等。
- (2) **県産広葉樹商品化スタートアップ事業**  
広葉樹製品の商品開発に関する経費の支援  
補助率：1/2（上限1,000千円） 募集件数：3件
- (3) **県産広葉樹プロモーション事業**  
宮城県産広葉樹の消費拡大を促し、川上の出荷量を増やすため、県内外の消費者に対し、県産広葉樹の魅力を発信する活動に要する経費。



4. 期待される効果等

- 高齢化・大径化した広葉樹林の更新伐が促進されることによる、ナラ枯れ被害の拡大の抑制
- 広葉樹資源の付加価値による森林所有者の収益向上
- 広葉樹の新たな需要創出による林業・木材産業の活性化

「広葉樹流通システム」の概念図

**森林・林業・木材産業の役割**

**森林の役割**

- 地球規模での環境保全に寄与
- 安全・安心で快適な生活に寄与

**林業・木材産業の役割**

- 森林の多面的機能の持続的発揮に寄与
- 木材産業の安定供給に寄与
- 地域経済の活性化に寄与

**目指す姿**

- 「木を使い・植え・育てる」循環型産業
- 森林の持つ多面的機能が発揮され、安心して暮らせる宮城県

**現状**

森林資源は成熟、再造林や森林整備は低迷

民有林の材積の推移

●人工林 ●天然林

森林の材積は年々増加、昭和40年の約6倍となっている。

民有林の林齢別面積

41年生以上が約8割

**課題**

**川上**

木材価格低迷により、森林経営意欲の減退、管理放棄される森林の増加

**川中**

伐採業者の広葉樹資源に対する知識不足

**川下**

- ハウスメーカー等の川下のニーズを把握できていない。
- 消費者は、木材の産地を意識していない。

**対応策**

**広葉樹林評価ビジネスの創出支援(委託)【R6】**

- 需要の把握 →関係者との意見交換・視察
- 川下のニーズに合った採材方法の実証
- 選木技術者の育成 →研修会実施

**自伐型林家 連携 素材業者**

県産広葉樹商品化スタートアップ事業(補助)  
県産広葉樹プロモーション事業(プロポーザル方式、委託)

**製材(家具・工芸品)** 薪、チップ・パルプ 等

**広葉樹流通システム構築【R7以降】**

**大径化によるナラ枯れ被害の拡大**

原木として価値がなくなる

**広葉樹需要の高まり**

- ウッドショックの影響で、国産材ヘシフト
- 原木市場では、R4.3から木材共販Web入札システムを開始し、広葉樹の取引が増加

**1haあたりの収益比較(広葉樹林:50年生以上)**

従来	チップパルプ	100m <sup>3</sup> /ha	→950千円
広葉樹流通システム	家具用材	6m <sup>3</sup> /ha	→1,200千円
	フローリング用	20m <sup>3</sup> /ha	→1,500千円
	チップ用	74m <sup>3</sup> /ha	→700千円
			<b>3,400千円</b>

UP 森林所有者収益



# ハーベスタシミュレーター

—VR機能(オプション)により、より現実に近い林地を体感—

## ■シミュレータのメリット

- 新規従事者に対し、安全に講習可能
- 実際の場所や材を確保することが不要
- 天候に関係なく、教育スケジュールを組むことが可能
- 点数評価による習熟度の管理が可能
- 若年層へのアピール効果大きい



VRゴーグル  
(オプション)



搭乗型のKF500は林業大学校や研修センタへの設置が最適です

- ・55インチ画面三面
- ・EMELバー
- ・頭部位置追従装置
- ・コマツの座席シート
- ・MaxiExplorerエミュレータ  
(太さと長さの組み合わせ造材モード)



第  
48  
回

みやぎ 2025

全国育樹祭

次世代へ みどりのかけ橋 森づくり



# 林相転換特別対策（特定スギ人工林）

宮城県事業名 「森林育成事業（花粉発生源特別緊急対策）」

－【公共】森林環境保全整備事業（拡充）

※令和5年度補正予算から措置

・花粉症対策や多様な森林づくりを進めるため、**重点区域**における伐採から造林までの**一貫作業**を実施

## 背景・課題

- スギ花粉症の患者数が国民の4割と推計されるなど社会的な問題となっており、その対策を早急に実施する必要がある。
- 高齢級に推移した人工林は、育成単層林を維持するだけでなく、複層林誘導を促進して多様な森林を造成する必要がある。

※その際、以下の視点が不可欠

- ① 花粉症対策として効果の高い場所を**重点区域**に指定し、**期間を区切って集中的に実施**すること
- ② 造林コストを低減させる**施業方法**であること
- ③ **多様で、花粉の少ない森林を造成**すべきこと
- ④ **山崩れなどを発生させない箇所**で行うべきこと

## 拡充事項

- 森林整備事業のメニューに**林相転換特別対策（特定スギ人工林）**を新設
- スギ人工林における、**伐採から造林までの一貫作業等**に対して支援し、**針広混交林化や花粉発生源の確実な植替え**を促進

**補助率：3/10（査定係数180）**

対象区域：①都道府県の設定する「スギ人工林伐採重点区域」であること  
②地方公共団体と森林所有者等で協定が締結されていること  
③土砂崩れの発生するおそれの高い箇所等でないこと

対象事業：花粉発生源となっている林分で行う**伐採から造林までの一貫作業**（伐採、造材、集材、機械地拵え、植栽）、下刈り、付帯施設整備、森林作業道整備

## 重点的な事業実施

- 都道府県が「スギ人工林伐採重点区域」を設定して、**重点的な植替え**を実施
- 伐採上限面積を設定し、**山地災害が発生しやすい箇所は対象外**

対象区域において植替えを実施



- 広葉樹も含め、**多様で花粉の少ない森林を造成**



一貫作業により花粉発生源の確実な植替えを促進



伐採

造材

集材  
(100m<sup>3</sup>/haまで)

機械地拵え

花粉の少ない  
苗木の植栽  
(2,000本/ha)

伐採から造林までの一貫作業とする



# 海岸防災林の普及啓発に係る事業の概要

## 経緯

- H26年度 「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」を制定
  - ・民間団体等（延べ42団体）が県・市町との協定に基づき146haを植栽
- R2年度 「みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会」を設立
  - ・会員数38（協定団体27、市町10、県1）
- R3年度 「みやぎグリーンコーストプロジェクト」の取組を開始

## 課題

- 海岸防災林が十分な機能を発揮するまでには長い年月を要するため、将来にわたって、活動を継続していく必要がある。

## 令和6年度事業

事業名	主な事業内容
<b>みやぎ防災林はぐくみ育てる実践事業</b> （実施主体：県）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みやぎ海岸防災林森林づくり協議会の運営支援</li> <li>○ 協定団体に対する技術指導</li> <li>○ バスツアー開催による海岸防災林の普及啓発</li> </ul>
<b>みやぎグリーンコースト支援事業</b> （実施主体：みやぎ海岸防災林森林づくり協議会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 協定団体が行う森林整備活動に対する支援（間伐木の処理等）</li> <li>○ 若者と地域住民・周辺集客施設と連携したにぎわいづくり</li> <li>○ ホームページやSNSによる情報発信</li> </ul>



MIYAGI Green Coast Project  
**みやぎグリーンコーストプロジェクト**  
 —ともに成長する海岸防災林。緑がつながる希望の曲線—

海岸防災林が成長するまで、長期間の保育管理が必要となります。このため、海岸防災林が人々に親しまれ、適切に維持されていくように、若い世代を取込み、将来にわたって活動を行ってもらうことを目標としています。



**コンセプト**  
 ともに成長する場所 防災減災を学ぶ場所  
 皆で楽しい時間を共有する場所  
 海岸防災林の保育活動を軸に、沿岸エリアへふたたび回帰し  
**みやぎの海岸線の未来をつくるプロジェクト**

### これまでの主な取組事業

ラジオ DateFM  
 「SESSION!～DATE EDITION～」  
 での番組提供及びラジオ CM



海岸防災林を身近に感じてもらうため宮城のアーティストが選抜わりで担当する番組の中で海岸防災林に関するラジオCMやインフォマーシャルを令和4年2月まで行いました。

動画制作及び  
 YouTube チャンネル開設



海岸防災林の保育及び保全活動に、「若者」を代表して地元の男女アーティストたちが参加し、彼らの目線で同世代に「活動の意義」と「楽しさ」を伝えてもらうため、YouTube動画を制作し、配信しています。

バスツアー開催



令和3年11月3日、6日、7日の3日間で、海岸防災林の保育作業を含むバスツアーを開催し、海岸防災林の重要性と普及啓発を行いました。

地域づくり研修会開催



令和3年11月24日に、沿岸地域の新たなにぎわいづくりを創出していくため、既協定団体、周辺集客施設、関係市町が一室に会し情報共有を行う研修会を開催しました。



人々に親しまれ、将来にわたって適切に維持される海岸防災林